



Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 36

H30.9.21

今月のキーワード

国際交流イベント

とちぎっ子学習状況調査

今年度も半年が過ぎ、前期学期末となりました。子どもたちにとっての振り返りが、次のステップへとつながるよう、先生方におかれましては、引き続き温かい御指導をよろしくお願い申し上げます。

今回は、9月中に実施した国際交流イベント及びH30年度とちぎっ子学習状況調査の結果分析(市全体)について掲載しました。調査結果については、各学校の実態や結果と比較し、教科部会等での話題としていただければ幸いです。

国際交流イベント(細谷小)

細谷小では、9月12日、Special English Dayを実施しました。全校児童が市内ALT(7名)やJTEとともに、異文化体験活動を楽しみました。

日本：ふくわらい

Nose ,mouth, ears !

アメリカ：ディズニーランド

昨年度に引き続き、細谷小では全校児童と保護者の方々による国際交流イベントを実施することができました。授業以外でも給食をALTと一緒に食べたり、昼休みにドッジボールをして遊んだりするなど、一人一人にとって思い出に残る一日(Special Day)であったことを願います。

ランチルームにて

フィリピン：バンブーダンス

学校規模により、全校児童生徒対象の企画は難しいですが、学年単位での取組は可能だと思います。是非、来年度の予定を立てる際に、国際交流等の企画も検討していただければ幸いです。

Please teach me how to dance. - OK !

ニュージーランド：ハカ

カナダ：ドリームキャッチャー

はやっこ音頭(細谷地区の踊り)



とちぎっ子学習状況調査より



H30年度とちぎっ子学習状況調査（中2英語）について、市全体の傾向及び課題について掲載します。校内でも共有し、授業改善に役立てていただきたいと思います。

正答率一覧より（概要）

- 全体正答率、基礎、活用、領域別（聞く・読む・書く）正答率、観点別正答率全てにおいて、市全体の平均は県平均を5ポイント以上上回った。
- 領域別では「聞く」「読む」領域が「書く」に比べて低い傾向にある。特に「長文の読み取り」について、昨年度に引き続き改善を図りたい。
- 「基礎」「活用」問題ともに、上位層と下位層の差は大きく開いている。
- 生徒質問紙調査から、授業中のコミュニケーション活動において、自分の考えや気持ちを積極的に伝えようしたり、相手の考えを理解しようしたりしている生徒は83.4%以上であった。
- 県平均正答率に届かなかった問題は、「基礎」に関する問題で1問あった。昨年度と比較すると、市全体の「基礎」問題の平均正答率は向上した。
- 設問9小問B「内容につながりのある3文以上の英文を書く（自分の好きな季節について）」の記述式問題については、市全体での無解答率が20%以上あった。なかでも、2文目を書かない生徒（無解答率）は30.5%にのぼった。

- ① 県平均よりも正答率が下回った問題 ②市全体の平均正答率が低かった問題
③ 無解答率の高かった問題 について紹介します。（②③は次回以降掲載します。）

①県平均よりも正答率が下回った問題（語順の理解）

- 設問8（3） How many～？を理解し、正しい語順で書く

A: How many (you / do / have / bags) ?

B: I have one. I like it very much.

<市正答率 61.5% 県正答率 63.2%>



○確認したい力 語順の理解（「語順の理解」については、昨年度から引き続き課題となっています）

○分析・考察

- 解答を見ると、疑問文の語順にはなっているが、How many の後に名詞を置かない、誤答（※How many do you have bags?）が26.8%にのぼった。
- 小学校で音声からインプットされている英文である。中学校で改めて文字や文構造を学習する際に、語順について再確認する必要がある。また、小学校の先生方には中学校でのつまずきを、中学校の先生方には、小学校での学習内容を確認していただきたい。
- クラスルームイングリッシュや、言語活動の中で意図的なインプット・アウトプットを繰り返し行うことが効果的である。生徒自身が声に出して話す、聞く活動を充実させたい。パターンプラクティスのみに陥ることなく、自己表現活動を通じた定着をお願いしたい。